

衣服の購入と収納・処分との関連について

○加來卯子*1 樋泉俣子*2 中川早苗*3

(*1西南女学院短大, *2光華女子短大(非), *3奈良女大生活環境)

【目的】豊かさがもたらした家庭内における衣服の増加は、人々に心理的な潤いを与える反面、その収納に頭を悩ましているのが現状である。収納許容量以上の衣服を購入した結果生じる収納に関する問題は、収納スペースの不足のみならず購入の仕方にも原因があるのではないと思われる。本研究では人々の衣服の購入数、処分数など消費の実態を探るとともに、衣服の購入と収納・処分との関連について考察した。また、衣服の有効利用という観点から衣服の再利用への意識についても検討した。

【方法】九州地区および関西地区に居住する18才以上の女性を対象に、平成6年11月1日～11月30日、配票留置法により質問紙調査を実施した。配布数864票、回収率72.6%であった。主な調査項目は衣服の購入、収納、処分および服装に関する意識、1年間の衣服購入数、処分数、衣服の再利用に関する意識、これからの衣生活のあり方に関する項目などである。

【結果】1年間の衣服の購入数は処分数を上回っており、衣服収納のためのスペースを切望する者は多い(88.0%)。収納がうまくいっている者は、そうでない者に比べて整理が得意で収納状態は良く、衣服の購入に関しては比較的計画性を持ち購入数も少ない。今後の衣生活について衣服の収納、処分については見直しが必要と答える者が多いが、購入については現状通りに進めたいと答える者が多く、人々が衣服の収納問題は購入時における問題よりも収納スペースに起因すると考えている様子がうかがえる。また、衣服の再利用については前向きに考える者が多いが中古衣服の着用には生理的な抵抗を感じる者も多い。